平成 25 年度　第 7 回理系チャレンジ講座を実施しました （H26/1/22）

第 7 回理系チャレンジ講座が　平成 26 年 1 月 22 日、「健康でその人らしく生きることを支える看護」をテーマに、医学部の寺町芳子講師の指導の下に開催されました。今回の講座は遠隔配信校の安心院・中津南・国東・高田・大分西・大分鶴崎・大分雄城台・日田・三重総合・臼杵の 10 校(201 名)と来学した大分豊府（27 名）を合わせて 228 名の高校生が受講しました。

今回は「看護学入門」に視点が置かれた内容で、初心者を対象にした講座でした。寺町講師は最初に「看護学は『健康でその人らしく生きることを支える』ことを目的とする実践の科学である。この学問は科学的思考と豊かな人間性としてのコミュニケーションや倫理感に基づかれており、人々の発達段階に応じて、様々な健康課題の解決を目指します。」と述べて授業が始まりました。ここでは看護職に就くために、医学・物理学・哲学・心理学・倫理学やコミュニケーション力など幅広い学問を身につけ、人間力を鍛えることが必要であることが分かりました。

次にがん患者の看護に含まれる緩和ケアやホスピスケアの概念や具体的な支援の方法について受講生の反応を確かめながら授業が進められていきました。胃がんの末期の状態にある A さんという患者の事例では、患者が抱えている様々な苦痛（身体的・精神的・社会的・スピリチャル的など）をトータルに把握し、その苦痛を緩和するための具体的な方法（分析（アセスメント）・計画・実施・評価していくプロセス）について学ぶことが出来ました。

最後に「人間にとっての生・死・幸福・他者をケアすることの意味や自分という存在について考えることを通して、人間として成長できることが、看護職の魅力である」と述べて授業が終わりました。今回の授業では、講師の豊かな実践的経験に基づいて構成された最新の看護学が丁寧に紹介されたので、どの話も初心者にとって印象深く、説得力があり、受講生は看護職への興味や関心を強く喚起されていました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(96%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(98%)、「授業内容は興味あるものであった」(83%)、「板書(スライド)は適切だった」(92%), 「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(90%)などの評価が得られました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(81%)、「映像はよく見えた」(91%)という結果がでました。

受講生の具体的な声として、「看護の仕事がとても魅力的に感じた」「大学で何を学ぶのかを知ることができた」「看護は同情ではなく、確固とした目的や技術の基に患者のケアを行う職業であることが分かった」「看護師に求められること・厳しさが分かった」「看護は患者を治療するだけではなく、精神的に寄り添うことが重要であることが分かった」「コミュニケーションの大切さを確認できた」「緩和ケアについてよく分かった」「高校生でもすごく分かり易い内容だった」「資料と照らし合わせながら、分かり易く説明してくれた」「難しい言葉を分かり易く説明しながら授業を進めてくれた」「話し方にアクセントがあったのでとても分かりやすかった」「事例があったので分かり易かった」「ホスピスに少し興味があったので、受講して良かった」「自分の進路を決める上でとても参考になった」「もっと看護のことを知りたいという意欲が湧いてきた」「人の死についてたくさんのことを考えることができた」「看護学に対しての関心が高まり、人の命の尊さについて考えることができた」「今まで知らなかった看護の話を聞けたのですごく勉強になった」「他の高校の人たちと同じ講義を受けられ、質問も直接できるので、機会があればまた参加したい」など多くの感想が寄せられ，受講生が「看護学」についての関心を高める貴重な講座になりました。